

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立第五小学校 第4学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)	次年度に向けた 自己評価 (A・B・C)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見と友達の見解を比較・関連・総合させ、自らの意見を再考することのできる児童は1割程度である。</li> <li>物語文の叙述を探したり、そこから考えや願いを想起したりすることができる児童は、学年の2割程度である。</li> <li>漢字学習に対する意欲は高く、テスト等の学級平均はどのクラスも80～90点台を保っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8割の児童が自分の意見を持てるようにする。そのために、切実感をもてる導入の工夫や知識のおさえ・活用の時間を設けていく。</li> <li>7割の児童の力を高めるために、音読を丁寧に行いながら、物語の人・場所・時を全員がおさえ、言葉や登場人物の動きを吟味し、思いや願いに迫っていく。</li> <li>今後も意欲を保ちつつ、加えて漢字の活用能力を高めるために長い文章を書く場を設けていく。</li> <li>朝学習では漢字の書き取り練習を行い、確実に漢字を習得させる。(90%)</li> </ul>	
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>わり算のあまりの位取りや、大きな数を計算する際の工夫など、本質の理解が伴う問題の解決に課題が見られる児童は5割である。</li> <li>2・3・4桁の四則演算が、個別に支援してできる児童が1割いる。</li> <li>解けない問題や新しい問題に出会ったとき、粘り強くこれまでの既習を活かして解決することができる児童は3割程度である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本問題の解決場面で、本質について考える時間を増やしていく。(8割の児童の定着を目指す)</li> <li>朝のモジュール等を活用しながら、復習の時間を帯状で設けていく。</li> <li>スモールステップの問題を用意しながら、できる自信をつけさせる。(9割)</li> </ul>	
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決の過程で、学習問題を立てることのできる児童は7割、根拠をもって予想を立てられる児童は5割程度である。</li> <li>温度計や注射器などの実験器具の扱いを安全に行うことに課題が見られる児童は1割程度である。</li> <li>学習問題の解決をするために、実験や観察を行うことに課題が見られる児童が7割みられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習問題の流れ(思考の流れ)に見通しを持ち、導入の教材を身近なもの、既習に合うものにしていく。</li> <li>実験器具の使い方を学ぶ時間を設けていく。(10割の児童に理解させる)</li> <li>学習問題解決のための学習であることを、他教科も含めて理解させ、見通しをもって実践させる。</li> </ul>	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いの場では、発言する発言することに課題が見られる。</li> <li>登場人物の気持ち等、自分の考えを書くことに課題が見られる。</li> <li>自分の生活について振り返ることに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハンドサインを使い、友達のと自分の考えを比べ表現できるようにする。</li> <li>登場人物の様子を伝えるなど、自分の考えを書けない児童には、個別に対応する。</li> <li>内容項目に沿って振り返ることのできている児童を紹介する等、内容項目を意識するよう指導する。</li> </ul>	